

第2期(2019~2024年度)

概要版

高知市地域福祉活動推進計画



だれもが安心して、
いきいきと自分らしく暮らせる
支え合いのあるまち



地「参」地「笑」 福祉でまちづくり ~地域の宝(社会資源)を活かした「つながりのあるまちづくり」~

※ 地「参」地「笑」とは、地域福祉活動へ積極的に参加して、
地域に笑顔があふれる暮らしをつくっていくことです。

●高知市地域福祉活動推進計画とは?

本市では、全国に先行する形で、少子・高齢化や人口減少が進んでおり、地域においては、支え合いや見守り機能の低下、隣近所や人と人とのつながりの希薄化などにより、社会的に孤立する方々への対応が課題となっています。

また、高齢者の認知症の問題や児童虐待、生活困窮の課題等、市民のみなさんが抱える困り事が複雑・多様化していることから、国においては、包括的な支援体制の構築などを旨とする地域共生社会の実現に向けた方向性が掲げられているところです。

こうした社会情勢や国の動きをふまえ、地域福祉推進の中核となる高知市社会福祉協議会(市社協)とともに、第2期「高知市地域福祉活動推進計画」を策定しました。

*そもそも「地域福祉」とは?

「地域」に注目し、高齢者や障害者、児童といった対象者ごとではなく、子どもから高齢者までの支援を要する全ての人を対象とし、誰もが住みやすい地域の仕組みをつくるために、住民、行政、事業者が協働して取り組む福祉活動の総体のことです。

高知市の状況

◆人口および世帯数

○総人口は、この10年間で約11,000人減少していますが、世帯数は徐々に増加し、1世帯あたりの人員は減少しています。

	平成20年	平成25年	平成30年
総人口	341,762人	339,166人	330,765人
男	159,210人	158,066人	154,446人
女	182,552人	181,100人	176,319人
総世帯数	157,308世帯	161,788世帯	163,539世帯
1世帯あたりの人員	2.17人	2.10人	2.02人

※各年7月1日現在の住民基本台帳人口による

◆出生数および死亡数

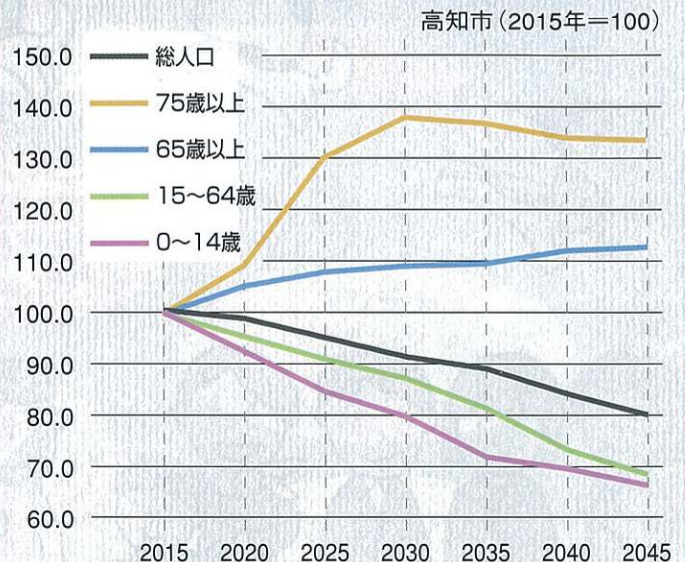
○年間出生数は、この10年間で499人減少していますが、死亡者数は554人増加しています。

	平成20年	平成25年	平成30年
出生数	2,914人	2,835人	2,415人
死亡数	3,281人	3,593人	3,835人

※各年住民基本台帳による

◆年齢階級別人口変化の推計

○総人口および0~64歳人口は減少し続け、65歳以上人口はゆるやかに増加、75歳以上人口の増加は、2030年をピークに、ゆるやかに減少し始めると推計されています。

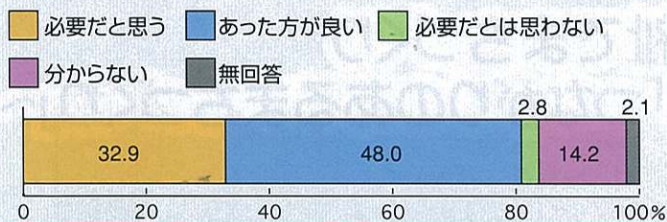


国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

●市民の地域福祉に関する意識

【住民同士の助け合いの必要性】

地域住民同士の助け合いについては、どの年齢層でも約8割近くの方が必要性を感じています。



【地域の活動やボランティア活動への参加状況】

地域の活動やボランティア活動へ「参加している」又は「現在は参加していないが、参加したことがある」と答えた人は、約3人に1人となっています。



地域福祉に関するアンケート調査

実施期間:平成30年6月

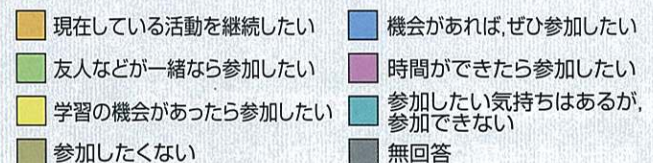
対象:高知市に住民票のある20歳以上の方(3,000人)

方法:郵送

回収率:44.8%

【今後の地域活動への意向】

今後の地域活動への意向については、約4割の方が参加したいと回答しています。



●「地域共生社会」の実現に向けて

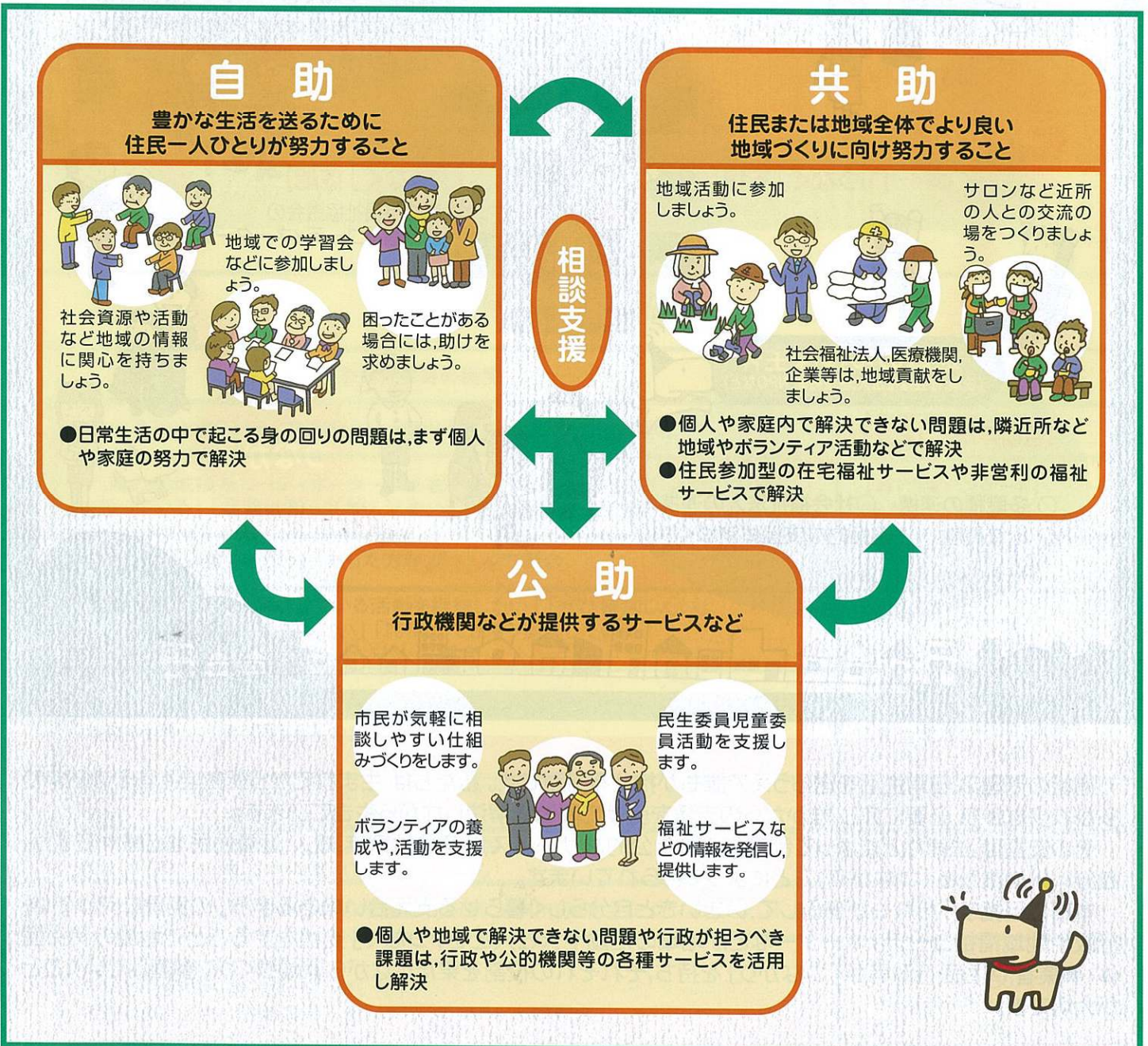
第1期(2013~2018年度)の取組の中で、私たちの住んでいる地域には、今まで知られていなかった多くの宝(「知恵」「人材」「資源」)があることに気づきはじめました。自分たちが住みたい地域を自分たちでつくる、地域でできることを探し、宝を活かし、発展させていこうとする住民主体の地域づくりの取組が市内の各地域で進められています。

「地域共生社会」とは、地域で課題を抱えている人を孤立させず、公的サービスとともに、身近な地域住民が主体となって助け合いながら、適切な支援につなぐためのネットワークが張り巡らされた社会です。

少子高齢化、課題の多様化・複雑化が進んでいる中、これまでの仕組みでは課題の解決が困難です。

「地域共生社会」の実現に向けては、地域の関係団体・事業者や住民、行政等が「つながる」ことにより協力し、「支える側」「支えられる側」という関係を超越、みんなでみんなを支え合うことが大切であり、地域福祉の推進は欠かせないものです。

そのためには、「自助」、「共助」、「公助」の3つの“助”を重層的に組み合わせ実践していくことが大切です。





【つながりのあるまちづくり】のイメージ



住民

【住民ひとりひとりが「つながる」、
地域で「つながる」】

- 「おたがいさま・ほおちよけん」の思い
- 見守り、支え合い



つながる

高知市

【関係部局が「つながる」、
「つなぐ(コーディネート)機能」】

- 全庁的な取り組み
- 縦割り ⇒ 横ぐし
- 包括的な支援体制づくり



つながる

【「つなぐ」支援】

【「つなぐ」機能】

- 高知市福祉協議会の
地域福祉コーディネーターなど

地域の多様な主体

(企業、社会福祉法人、医療機関、NPOなど)

【各団体が「つながる」、
地域と「つながる」】

- 多職種の連携
- 社会福祉法人の連携
- 地域貢献
- 包括的な支援体制づくり

つながる



福祉の問題は、日常生活を送るうえで誰もが抱える問題です。私たちは、生まれてから死を迎えるその日まで多かれ少なかれ、必要に応じ、誰かからの支援を受けて問題を解決しながら生きています。

その支援は、法律などによって制度化された公的なサービス、あるいは家族、知人、近隣住民など様々ですが、自分以外の誰かと「つながる」ことによって得られています。

本市の目指す「だれもが安心して、いきいきと自分らしく暮らせる支え合いのあるまち」の実現に向けては、行政や地域福祉コーディネーターなどが地域の活動や人と人との「つなぐ」支援をすることで地域の関係団体・事業者や住民、行政等が「つながり」を持ち、それぞれの役割を果たしながら地域づくりに参画していくことが大切です。

●基本理念・基本目標

基本理念の実現に向け、次の7つの基本目標を設定し、取り組めます。

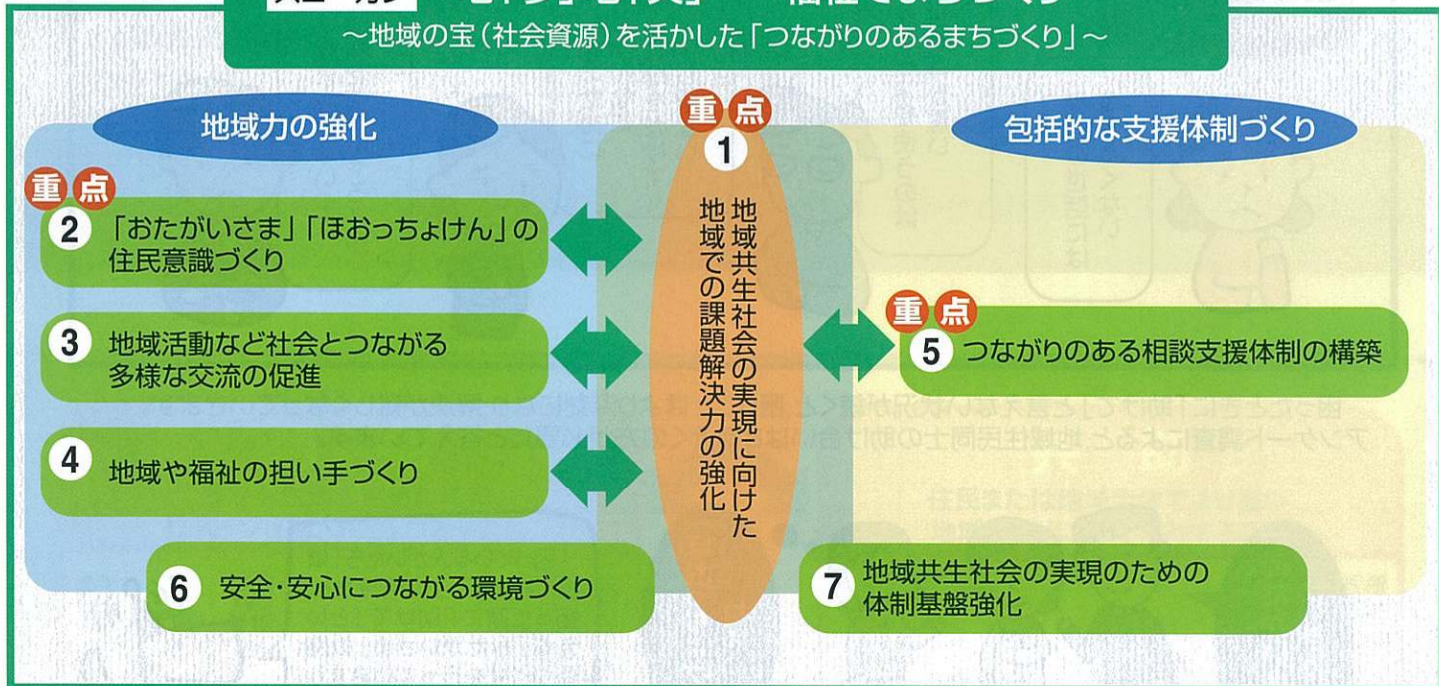
基本理念

高知市の目指す地域共生社会

だれもが安心して、いきいきと自分らしく暮らせる支え合いのあるまち

スローガン 地「参」地「笑」 福祉でまちづくり

～地域の宝(社会資源)を活かした「つながりのあるまちづくり」～



指標・目標

基本目標毎の指標		2018年⇒2024年
1	地域の活動やボランティア活動への参加:「参加している」人の割合	【市民アンケート】 16.8% ⇒ 50%
	専門職の地域福祉コーディネーターの活動内容の周知度:「名前も活動の中身もよく知っている」「名前は知っており、活動内容も少しは知っている」人の割合	【専門職アンケート】 68.5% ⇒ 90%
2	助け合いが「必要だと思う」「あった方がよい」人の割合	【市民アンケート】 80.9% ⇒ 95%
	今後の地域活動へ「現在している活動を継続したい」「ぜひ参加したい」「友人などが一緒なら参加したい」「時間ができたら参加したい」「学習の機会があったら参加したい」人の割合	【市民アンケート】 43.1% ⇒ 80%
3	住んでいる地域(担当区域)の助け合いがあるかどうかに対して「大変そう思う」「そう思う」人の割合	【市民アンケート】 26.9% ⇒ 50% 【民生委員アンケート】 61.2% ⇒ 70%
	「福祉委員」「気くばりさん」の地域の活動やボランティア活動への参加率:「参加している」「参加していないが参加したことがある」人の割合	【福祉委員・気くばりさんアンケート】 61.7% ⇒ 80%
5	住民の身近な地域でのなんでも相談窓口の設置か所数(社会福祉法人・民間の事業所での設置も含む)	0か所 ⇒ 40か所
6	高知市総合計画実施計画,高知市強靱化計画,高知市強靱化アクションプランに記載	
7	市社協の活動内容の周知度:「名前も活動の中身もよく知っている」「名前は知っており活動内容も少しは知っている」人の割合	【市民アンケート】 21.6% ⇒ 50% 【町内会長・自治会長アンケート】 58% ⇒ 70%

重点

「おたがいさま」「ほおっちょけん」の住民意識づくり【基本目標2】

こんなことで困りごとの相談や手助けを遠慮していませんか？



意識の壁



他人の世話には
なりたくない

サービスを使うのは
世間体が悪い



私のために
みんなに
迷惑をかけて
申し訳ない

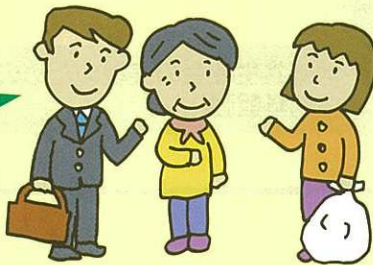


頼まれてなのに
おせっかいはやろうか



困ったときに「助けて」と言えない状況が続くと、困りごとはより深刻になり、解決が難しくなっていきます。アンケート調査によると、地域住民同士の助け合いは8割近くの方が必要だと答えています。

「おたがいさま」
やきね



「ほおっちょけん」
ねえ

困っている人がいたら「ほおっちょけん」の気持ちと、困った時に「助けて」といえる「おたがいさま」の関係づくりを行っていきましょう。



今後、地域の活動へ参加をしたいと回答した人は、約4割いました。

しかし…

情報の壁



どこかに
踊りとか折り紙とか
特技をもった人は
おらんろうか



ボランティア
活動したいけど
どうやったら
できるかやろうか？

一緒に
ボランティアできる人
おらんろうか



ボランティアで
役立つ技術を
勉強したいけど…



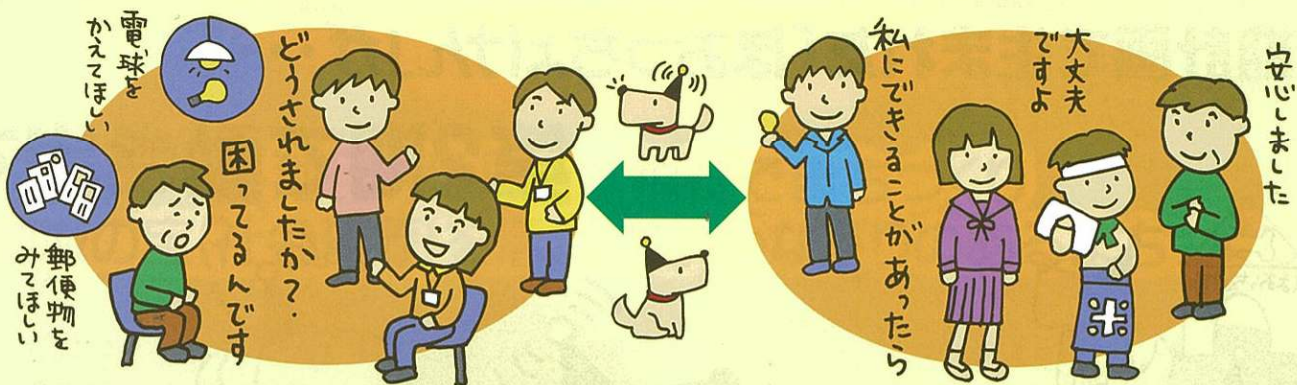
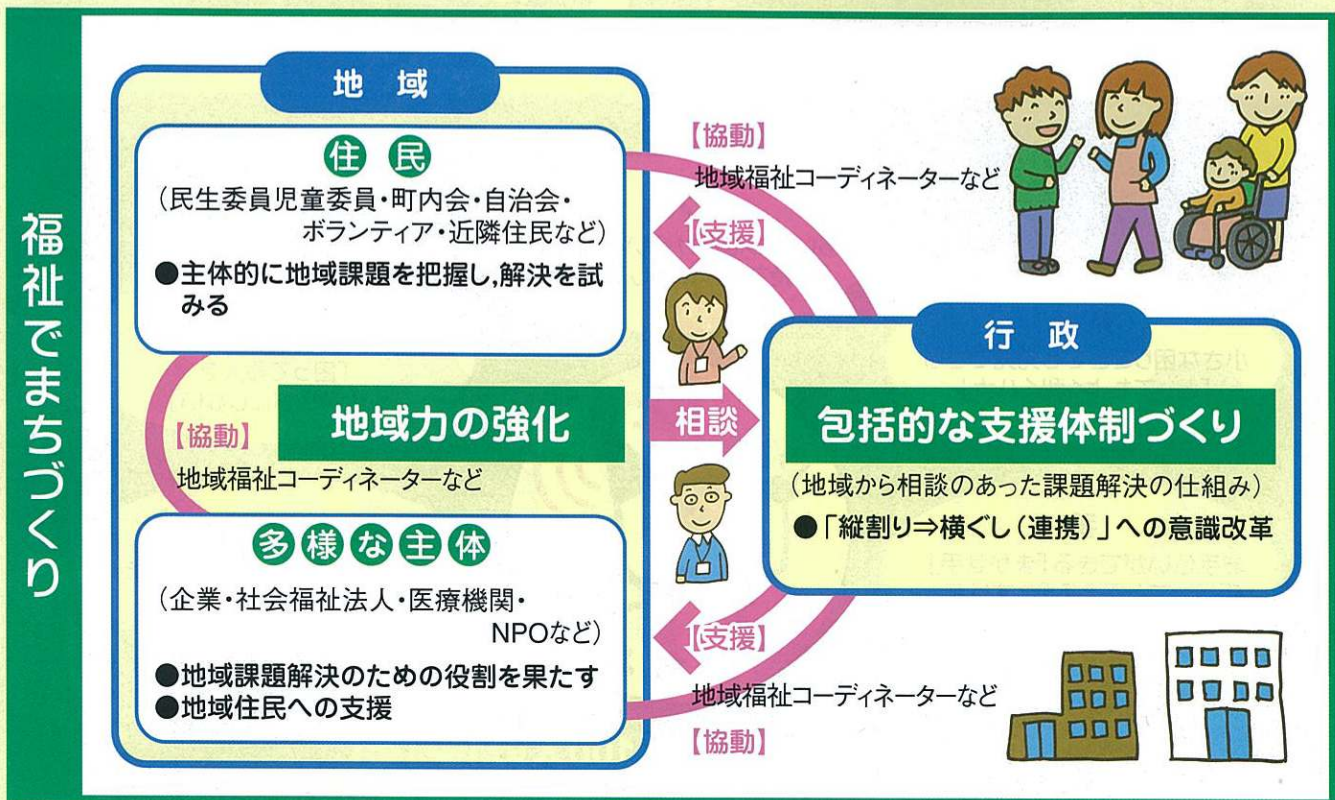
活動に関する情報を知らなかったり、身近に活動グループや仲間がいない(知らない)といった理由などから、活動意欲はあるのに、活動できていない人が大勢います。

今後は、活動の場をつくりたい人や参加したいと思っている人へのきっかけづくりや情報提供、また、現在活動を行っている人やこれから活動を行う人や団体に対する支援を行い、活動を継続しやすい仕組みづくりを行っていきます。

重点

「地域共生社会の実現に向けた地域での課題解決力の強化【基本目標1】」
 「つながりのある相談支援体制の構築【基本目標5】」

地域共生社会実現のための役割分担のイメージ



地域活動など社会とつながる多様な交流の促進【基本目標3】

地域活動につながる多様な交流の機会づくりと多様な社会活動の仕組みづくりを促進します。

地域や福祉の担い手づくり

【基本目標4】

既存の担い手をつないでいく支援と多様な担い手の発掘と育成の仕組みづくりを進めます。

安全・安心につながる環境づくり

【基本目標6】

暮らしやすい生活環境の整備と災害時の対策の充実を進めます。

地域共生社会の実現のための体制基盤強化【基本目標7】

市社協及び市のそれぞれの役割を明確にし、その機能を強化します。

●高知市総合計画等との関係

地域福祉活動推進計画は、高知市総合計画を上位計画とし、また、福祉の各分野における共通事項を定め、関連する各計画（右記図参照）の上位計画として位置づけます。

高知市総合計画

地域福祉活動推進計画

高齢者保健福祉計画
介護保険事業計画

障害児福祉計画
障害福祉計画

子ども子育て支援
事業計画

健康づくり計画

この計画は、社会福祉法第107条に基づく市町村計画である「高知市地域福祉計画」と高知市社会福祉協議会の計画である「地域福祉活動計画」を一体的に策定したものです。

ワン

あいさつは助け合いのはじまり
「気持ちを声に出してみよう」

ハナ

小さな困りごとでも発見できる
「とってもしっかりハナ」

手

お手伝いができる「まかせ手」
手伝ってと言える「たすけ手」



アンテナ

一人ひとりがアンテナ役となって
「困ってる人を一人ぼっちにしない」

ほおっちょけん

誰かひとりにしんどいことを
「まかせっきりにしない」

「ひとりの100歩」より「100人の1歩」を！

第1期計画で生まれた「ほおっちょけん」が...

第2期で動き出す



<編集・発行・問い合わせ先>

高知市健康福祉部 健康福祉総務課
〒780-8571 高知市本町5丁目1番45号
TEL 088-823-9440
FAX 088-823-9381
メールアドレス kc-110600@city.kochi.lg.jp

社会福祉法人 高知市社会福祉協議会
〒780-0065 高知市塩田町18番10号
高知市保健福祉センター内
TEL088-823-9515
FAX 088-823-8059
メールアドレス shakyo@kochi-csw.or.jp

※この概要版には本冊子があります。本冊子については、左記にお問い合わせください。